

受講番号 19065 学校名 西部中学校 氏名 岡 つぐみ

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生 生徒数 25名
 科目名 2年生 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 NEW HORIZON English Course2

クラスの様子・特徴

英語が得意で積極的な生徒と苦手意識の強い生徒に分かれている。同じ授業の中で苦手な生徒に自信をつけ、意欲を持たせる授業はできないか？特にWritingが苦手な生徒が多いので、書くことを中心に基本的な文法の定着を図りたい。

問題の確定

基本的な文法の定着を図りつつ、手ごたえを感じながら、Writingに集中して取り組める内容の工夫

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学力データ
全体的に発音の声はよく出ているが、理解して読んでいる生徒と発声のみになっている生徒に分かれる。単語の練習やノート作成にも一生懸命に取り組む生徒がほとんどであるがまだまだ基本文法の定着ができていない生徒も多い。とくに表現の能力が弱い。	どんな力をつけたいか？については圧倒的にWritingの力をつけたいという結果が出る。(Listening4 Speaking4 Reading6 Writing15)	2年生8クラスを平均点で比較した際には、中間に位置するクラスである。男女の学力差がほとんどないが、どちらかという、男子のほうが真面目で平均点も高い。

リサーチ・クエスチョン

英語の学習に積極的な生徒と苦手意識の強い生徒との学力差があるクラスで、全員が3~5文の英文を使って、日記が書ける程度のWritingの力をつけるにはどのような指導が効果的なのか。

仮説・実践・検証

仮説1	実践1	検証1
ポイントを絞ったプリントやDrillに時間をかけるなど授業内容のスリム化を図る。和文英訳はカットしてその分GameやPointの練習、ワークに時間をかけるようにする。そこで使える単語・フレーズを増やしていくことで、少しずつ英文らしいものが書けるようになるのではないだろうか。(Bingo以外にも例えば、基本文の早写し(弾丸インプット)などやってみる。)	和訳配布によって大幅な時間カットができた。大半の生徒が日記を書かせたことで日付も書けるようになり、Warm UpでのBINGOも集中して取り組めた。とくに1年生の単語の復習ができたのがよかった。ワークシートを使っているグループ・ペアでのかかわりもよくでき、教えあう空気ができてきたようである。	スリム化を図ったことで、ポイントの習得のためにDrillをしたり、ペアやグループで関わりあい、教え合い、活動しながら学習する時間ができた。日記は毎時間ではなく、週に1、2回にし、できるだけそのとき学習している表現を使うように指示をしたが、自分が簡単に作れる英作文の域を超えない簡単な文が多く、工夫して表現しようとする意欲はあまり見られない。
読めないから書けないのではないかと教科書の英文が自分で読めるようになるために、声をしっかり出して単語を音から覚えること(Target Sentenceなら音読筆写)に時間をかければ、読むことにも自信が付き、苦手な生徒も積極的に学習に取り組めるようになるのではないかと？	スリム化を図ったことで、フラッシュカードでの新出単語の導入は多くの時間をかけてできるようになった。慣れてくると日本語をみて英語をいうことができる生徒も増えてきた。時間ができたので教育計画どおり教科書も進めることができ、Reading Testも2学期中に2回することができた。暗唱してくる生徒も多く出てきた。予習ノートはほとんど(9割)の生徒に定着。	事前予習ノートを作ってくることで授業にスムーズに入ることができる。Reading Testは大変効果あり。練習でしっかり声を出して読むようになり、教科書を自分で読めるようになることで自信もついてきたようである。(一回目のテストよりは二回目読める生徒が増えていた)日記の表現力への影響はあまりないようである。ただし助動詞は比較的取り入れ易かったようで、よく使っている。
できるだけ毎時間5~10分かけて、簡単な日記を書くように指導を続けていけば、少しずつでも全員が英文をかけるようになるのではないかと。(意味のある英文を3~5文)	マンネリ化しないようにポイントを押さえた日記文の書き方を指示するようにした。まず、パターン通りに書けるようにし、そこがクリアできたら、段階的にレベルを上げていくようにした。できるだけその日のポイントを関連づけていくようにした。最後のほうはテーマを与えて、書くようにした。	週に一回、1~2文からスタートして3文以上書けるように目指したが、なかなか書けない生徒も多かった。教科書で新しい表現を学ぶたびにその表現を足していくことで、英文を作る力が深まった生徒もいる。決まりきった文(六時におきた、朝ごはん食べた。など)から、少しずつ、自分しかできない表現(自分だけの特別な体験)を書いてみようとする意欲は感じられるようになってきた。

研究の成果

Writingの力を身につけさせるという今回の目標は、結果、授業全般の見直しをするきっかけとなった。生徒ひとりひとりの力が伸びたのかどうかは、今の時点で日記を読み比べても定かではない。ただ表現しようとする内容がありきたりなワンパターンの表現からオリジナルなものも少し増えてきたようである。英文日記を書く以前に自己表現をすることがとても苦手な生徒が多かったので、自分の個人的な情報を表現しようとするようになってきたことはうれしいことである。

今後の授業改善の課題

英文を作成すること以上に、自己表現が特に苦手な一部の生徒にとっては日記を書くという作業は少しハードルが高すぎた感じもしている。日記以外にも様々な場面設定で自己表現力をつけるための内容を考えていかなければならない。また、授業全体の見直しは十分できてきたように思うが、Writingの力をつけるためのより効果的な指導内容ができたかという点はまだである。

リサーチについての問合せ先: 職場電話 088-844-0105